

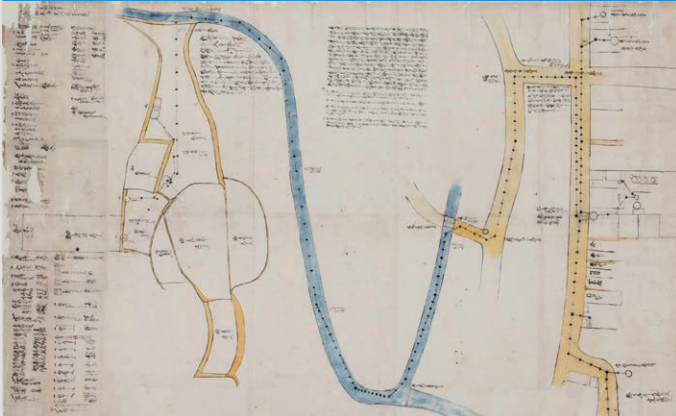


ミツカン水の文化センター オンラインセミナー

近世の井戸を水源とする都市給水システムを考える—近江八幡・高松・半田— を開催しました！



神吉和夫さん



『嘉永期建設の水道の模式図』



樽でつくられた木製の水道管と継手 いずれも招鶴亭文庫蔵

日時：2021年11月20日(土)
13:30～15:30

会場：オンライン
(Zoom ウェビナーにて配信)

参加者数：80名

講師：神吉和夫(かんき かずお)さん
土木史研究者 博士(工学)

主催：ミツカン水の文化センター
共催：一般財団法人 招鶴亭文庫

2021年11月20日、オンラインセミナー「近世の井戸を水源とする都市給水システムを考える—近江八幡・高松・半田—」を開催しました。

現代の日本では安全な水を日々不自由なく使えていますので「この国は水に恵まれている」と思われている方が多いと思います。ところが実際には水が豊かなのではなく、水道をはじめとした水インフラを長い歳月をかけて整えてきたからこそ今の暮らしがあるのです。

今回は土木史研究者の神吉和夫さんを講師にお迎えし、近世の井戸を水源とする代表的な地域の水道の特徴や用途の違いについて学びました。

開催レポートはHPで公開中です。また、セミナー参加者からの事前質問、セミナー中にチャットで寄せられた質問に対して神吉さんが講演後に回答して下さった内容も掲載しています。

当日参加できなかった方はぜひご覧ください！

機関誌「水の文化」連載



堂々完結！

「みず・ひと・まちの未来モデル」松本編

本誌で好評連載中の「みず・ひと・まちの未来モデル」。初年度は長野県松本市の公共井戸を通じて地域の水場の魅力を探り、松本市役所に対する政策提言を行ないました。(詳細はpp.44-49)

そして2022年1月7日、法政大学現代福祉学部准教授の野田岳仁さんと野田ゼミ3年生の皆さん12名がミツカンの東京ヘッドオフィスに訪。ミツカン若手社員を含めて、スタートか

ら8か月に及ぶ研究活動を振り返りました。若い人たちが経験を積む場の手助けができたことは、センターにとっても貴重な取り組みです。

本誌では掲載しきれなかった政策提言に関する資料や研究活動に取り組んだ学生さんたちの感想を含め、初年度の松本市における研究成果が見られるページを当センターHPにて3月下旬に掲載予定です。メールマガジン等でお知らせしますので、ぜひご覧ください！

人気の連載 「食の風土記」

情報募集中！

コロナ禍で取材できず休載していた連載「食の風土記」が2年ぶりに再開しました。

これからも各地の水と風土が織りなす食の文化を紹介していきますので、お勧めの料理・食材の情報があれば次ページでご案内していますアンケートフォームからお寄せください！お待ちしております。

機関誌『水の文化』制作について

ミツカン水の文化センターで発行しております機関誌『水の文化』70号につきましては、感染防止対策を徹底し、かつパソコンのWEBカメラも用いて取材活動を行ないました。取材先の皆さまには、顔写真撮影に関してマスクを外していただくなどのご協力をお願いしました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。71号以降も感染防止対策を徹底したうえで、機関誌『水の文化』を制作してまいります。

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<https://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

25年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』70号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<https://www.mizu.gr.jp/form70.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX：03-6784-3056

メールアドレス：mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

「みんなでつなぐこと」を産官学の連携で考えると、事業活動、地域活性、研究成果、それぞれの有効性が高まること以上に、高い視座で全体を見渡し、相手の身になって考えられることに大きな意味があるように感じます。これは我々世代が次世代に繋ぐためにも重要な視点であると、今回の取材を通じて感じました。(五)

2010年の「水にかかわる生活意識調査」は、熊本県民が「水」へ寄せる信頼や愛着の強さを表す結果となった。地域や年代の壁を超え、みんなで地下水を守り・育てる取り組みを実現できたのも、この強い愛着故。サミットでは先端技術だけでなく、郷土の水への愛着を育み継承する熊本の知恵も世界に伝わって欲しい。(松)

蛇口からミネラルウォーター。まさかそんな場所はあるまいと、はじめ私は耳を疑った。水が美味しいのは、あたりまえ。この誰もが羨むような「あたりまえ」を作ってきたのは、先人から大切に紡がれている、熊本の人々の水への想いだと感じた。あたりまえを、あたりまえとして残していくこと、それが一番難しいと私は思う。(鈴)

過去に熊本旅行をした折には、阿蘇地域のスキ野原に感動し、凄まじい湧水量に驚き、地元の美味しいものを楽しんだ。豊富な地下水を守るための様々な取り組みや人のつながりの中に、勝手に自分の思い出を加えて改めて、本誌の特集記事を読み直してみたいとおも。(飯)

2010年の特集でも取り上げた熊本。当時から地下水位の低下や水質汚染が課題で、その解決にむけて様々な取り組みがされていた。それから12年経った今号では、地下水の流れや水質が「見える化」され、施策や事業の結果が着実に現れている。まだ「予測」でしかなかったことを信じて継続してきたことに感動を覚えた。(力)

「水資源という言葉は、水が日本人にとってまず何よりも外なる存在であることを暗示している。農業経済学者の玉城哲は『風土の経済学(増補新版)』にそう記した。そういえば取材中に一度も「水資源」と聞かなかった気がする。熊本の人たちにとって、水は今も「内なる存在」なのだろう。そういう土地で生きることには強く憧れる。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第70号

ホームページアドレス

<https://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2022年(令和4年)2月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学名誉教授

鳥越皓之 大手前大学学長

制作

浦本五郎

松本裕佳

鈴木彩乃

青木広実

小林夕夏

久保悦史

飯野真奈美

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

蔵田 豊 デザイン

執筆

佐々木 聖 (pp.10-14, pp.30-37)

手塚ひとみ (pp.6-9)

開 洋美 (pp.15-19, pp.50-51)

前川太一郎 (pp.20-29)

撮影

大平正美

川本聖哉

藤牧徹也

渡邊まり子

描画

赤木あゆ子 (p.33, p.56)

印刷

中塾総合印刷株式会社